



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2004 (Vol.5, No.2)

第14回世話人会開催さる 規約改正に伴い役員新体制発足

さる1月8日、大河原良雄代表世話人および豊田章一郎、茂木友三郎、島田晴雄、伊藤憲一の4世話人の出席を得て、第14回世話人会が東京全日空ホテルにて開催された。当日は、①2003年度活動実績報告 (ASEAN、米国、台湾との「対話」)、②2004年度活動計画案 (ASEAN、中国、インドとの「対話」)、③2003年度収支決算案 (総額100,255,049円、収支差額+1,171,121円)、④2004年度収支予算案 (総額

99,781,471円) を可決したほか、つぎの2件を審議、承認した。

第一は、「規約の一部改正」の件。まず、当本フォーラムの目的について、「世界と日本の間に各界横断の政策志向の知的対話を組織し、もって彼我の相互理解および合意形成に資すること」と改められた。規約の表現を実態に合わせたものであって、これによって実態を変えようとしたものではない。また、これまで「代表世話人の意を受けて、本フォーラムの業務を掌理する」のは「事務局長」であるとされてきたが、今後は「執行世話人」(President) のポストを新設して、その任を託し、「事務局長」は「日常の事務を処理すること」に専念することとなった。

第二は、「任期終了に伴う世話人の



活動計画案等を審議する
第14回世話人会のもよう

改選」の件。規約改正に伴い執行世話人のポストが新設されたが、新執行世話人に伊藤憲一前世話人事務局長が選任されたほか、新世話人として神保謙有識者メンバーが選任された。また、大河原良雄前代表世話人のほか、豊田章一郎、茂木友三郎、島田晴雄、谷垣禎一、鳩山由紀夫の5人の前世話人がいずれも重任された。新体制は、2月1日から2年間の任期でスタートした。新事務局長には、これまで事務局の縁の下の力持ちとして当フォーラムの実務を支えてきた渡辺蘭前事務局長代理が、新執行世話人から指名された。



伊藤 憲一
新執行世話人



神保 謙
新世話人

「日・ASEAN対話」開催決定

当フォーラムは、2002年2月、2003年1月につづく第3回「日・ASEAN対話」を本年7月に開催する予定である。昨年12月15日に神保謙メンバーがソウルでプラスティヨノ・インドネシア戦略国際問題研究所部長を始めとするASEAN側関係者と合意した。

第3回会合のテーマは「東アジア共同体へのロードマップ」と決まり、「東アジア共同体」の形成に向けて、日本とASEANがどのような協力関係を構築し、発展させることができるかについて、双方の各界オピニオン・リーダー間の活発な意見交換が期待されている。昨年12月の日・ASEAN特別首脳会議でも「東アジア共同体」の推進が合意されており、期待は大きい。

「日米韓対話」開催準備進む

当フォーラムは、1995年10月5日に「北朝鮮情勢の展望：論点と趨勢」と題して「日米韓対話」を開催したが、それ以来9年ぶりの「日米韓対話」が、今年10月に実現しそうだ。

当フォーラムは現在、米国タフツ大学フレッチャー・スクール外交政策分析研究所 (IFPA) および韓国延世大学国際大学院 (GSIS) と共催して「北朝鮮情勢の推移と日米韓の対応」と題する「日米韓対話」の準備を進めている。

当日は日米韓政府間協議 (TCOG) をなぞりながら、「北朝鮮政権の崩壊時への対応」「在日・在韓米軍の再編成」「アジア地域の軍備管理」の3テーマについて、日米韓3国の協力の可能性を模索する予定。

2004年度の国際対話計画

7月22-23日

日・ASEAN対話「東アジア共同体へのロードマップ」(東京)
(ASEAN-ISISとの共催)

9月16-17日

日中対話「東アジア共同体の展望と日中関係」(東京) (中国国際友好連絡会との共催)

10月14-15日

日米韓対話「北朝鮮情勢の推移と日米韓の対応」(東京) (米国タフツ大学フレッチャー・スクール外交政策分析研究所および韓国延世大学国際大学院との共催)

定例「年次総会」開催 スーザン・ファー教授を囲む夕べ

1月9日、夕食会の形式で第17回年次総会が開催され、大河原良雄代表世話人、伊藤憲一世話人事務局長のほか、愛知和男、大宅映子、坂本正弘、永野茂門、中原伸之、廣野良吉、広中和歌子など15人のメンバーが出席した。

冒頭、世話人会(1頁)の審議結果が報告されたほか、「規約の一部改正」については、総会としても世話人会同様に審議を行ない、満場一致で原案を承認した。

続いて、スーザン・ファー・ハーバード大学教授を迎えて「日本における市民社会について」との報告を聴いた。

ファー教授は、多数の旧知の友人と再会し、「このような機会を持つことができていると嬉しい」と語った後、「現在世界的に、民間ボランティア組織が発展しているが、その数が急増したのは、第2次大戦直後と1980年代末の2度であった。米国では現在存在する団体の70%が過去13年以内に、日本では55%



スーザン・ファー教授を囲んで

が過去8年以内に設立されている。民間団体の革命が起きている理由はいろいろあるが、①インターネット等の情報通信革命、②政府の力の相対的弱体化、③国境を越えたグローバルな課題の増大などが大きな理由だ。また、各国の非営利団体の統計を比較してみると、日本のNGOは数が少なく、その規模も小さいことが気になる。その活動資金も、政府からの助成に依存している割合が高い」と報告した。その後、ファー教授を囲んで出席者一同は、夜が更けるまで、懇談した。

国際政経懇話会

グローバル・フォーラム等3団体共催による月例朝食会「国際政経懇話会」が1月28日都内のホテルで開催された。

小松一郎外務省欧州局長を講師に迎え、「欧州統合の進展と日本」と題し、EU統合について、経済、安保、司法の各分野の「深化」の見通しと、2004年の10カ国加盟後の「拡大」の展望等についてお話を伺った。その後1時間にわたり、今井敬、金森久雄、神谷健一、服部靖夫、グレン・フクシマ等20名の出席者との間でオフレコ・ベースの懇談が行われた。

■新規入会メンバーの紹介 (12-2月分)

[有識者メンバー]

- 伊藤 英成 アラコ株式会社顧問
- 柿澤 弘治 柿澤総合研究所会長
- 浜田卓二郎 前参議院議員
- 渡辺 孝 時事通信社外信部部長

事務局便り

当フォーラム『会報』1月1日号にて既報のとおり、「日印対話」が5月開催の予定でしたが、この程インド側共催相手のオブザーバー・リサーチ財

追悼

当フォーラムの設立以来のメンバーである武田豊新日本製鉄社友が、さる2月15日に逝去されました。故武田豊メンバーは1982年の当フォーラムの設立以来、22年間にわたり経済人メンバーとして当フォーラムの活動を支援してくださいました。

故武田豊メンバーのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

補佐人会開催

昨年12月19日に第10回補佐人会が都内のホテルで開催された。当日は、豊田章一郎、茂木友三郎各経済人世話人によって指名された笠間正治トヨタ自動車企画室長、清水和生キッコーマン社長室参事の両補佐人によって当フォーラム2003年度収支決算案の監査が行なわれ、証拠書類等を精査した後、両補佐人から「適正である」と認められた。

団からの突然の申し出により、無期延期となりました。

「インド総選挙のためその時期の訪日が困難になった」とのことで、当方としてはどうしようもなく、残念の極みでした。

謝辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の13社21口です。ここに特記して謝意を表します。

[経済人世話人所属企業] [5口]

トヨタ自動車 キッコーマン

[経済人メンバー所属企業] [1口]

- 住友電気工業 鹿島建設 新日本製鉄
- 東京電力 三井住友銀行 旭硝子
- 東京三菱銀行 日本電信電話
- 富士ゼロックス ビル代行
- 松下電器産業

(入会日付順)

フォーラム活動日誌 (12-2月)

12月14-17日 日米韓対話および日・ASEAN対話打合せのためソウル出張 (神保謙メンバー)

12月19日 第10回補佐人会 (2頁)

1月8日 第14回世話人会 (1頁)

1月9日 第17回総会およびSusan J. Pharr教授を囲む夕べ (2頁)

1月27日 李世昌台北駐日経済文化代表処文化組長往訪 (渡辺蘭事務局長代理、山田美樹事務局主任)

1月28日 第159回国際政経懇話会 (小松一郎外務省欧州局長他19名)

2月23日 第160回国際政経懇話会 (森本敏拓殖大学教授他21名)

2月20日 Nabi Sonboli イラン大使館書記官来訪 (神保謙世話人)